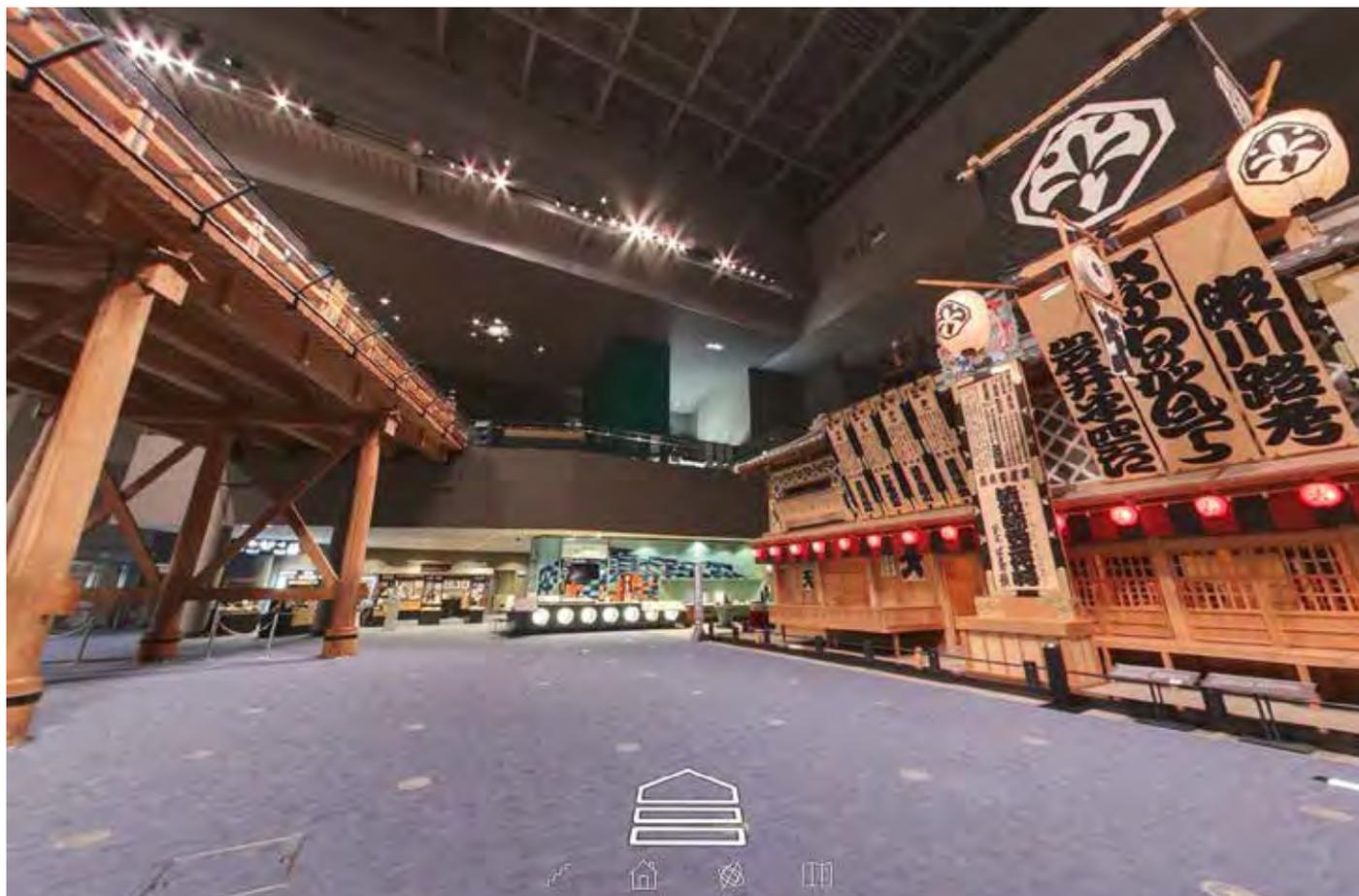


2018年(平成30)4月の再オープンに向けてただいま準備中!



パノラマビュー完成イメージ映像(詳しくは次ページ「パノラマビューの撮影」をご覧ください。)

TOPICS

- 新しい取組 5階・6階 常設展示室 パノラマビューの撮影
- えどはくカルチャー 秋の六義園^{りくぎえん}を歩いてきました
- 江戸東京たてもの園セミナー 「たてもの^{まとい}と自然・庭」
- 常設展示室から 「す組」の纏^{まとい}、触る模型も仲間入り
- 研究の散歩道 「す組」の纏^{まとい}の変遷
- オリジナルミュージアムグッズの新商品
当館収蔵の「武蔵野図屏風」をデザインしたスカーフが完成!
- 休館情報

休館中の
取組について
紹介するよ!



パノラマビューの撮影

常設展示室では、「360度パノラマビュー」の撮影が始まりました。パノラマビューは、神田明神の山車の高所や絵草紙屋のような大型模型の内部など、通常の見学では目にする事ができない部分を、その場にいるかのような臨場感でお楽しみいただける映像コンテンツです。

2018年(平成30)3月頃に当館ホームページで公開の予定です。どうぞお楽しみに。



模型「絵草紙屋」内で撮影ポイントを決め、カメラを設置



模型「三井越後屋江戸本店」で小型カメラを設置



模型「鹿鳴館」の前庭にカメラを設置



模型「神田明神山車」での高所撮影

秋の六義園を歩いてきました

従来、当館で行なってきた「えどはくカルチャー」ですが、休館中は会場を移して開催しています。2017年(平成29)10月24日には、5代将軍徳川綱吉に仕えた柳沢吉保の設計による六義園(文京区本駒込)に行きました。吉保が嗜んだ和歌の素養が反映された園の成り立ちや、庭園の鑑賞方法について解説をしながら、参加者の皆様と園内を歩きました。

これからも、史跡散歩も含め、様々な場所で「えどはくカルチャー」を開催していきます。詳しくは当館ホームページをご覧ください。



六義園での解説の様子

- お問い合わせ先
03-3626-9974 (休館期間中は平日のみの対応)
- えどはくカルチャーホームページ
<http://www.edo-tokyo-museum.or.jp/event/culture>

江戸東京たてももの園セミナー 「たてももの」と自然・庭」

古来、日本の建築は自然・庭との連続性を意識し、お互い密接な関係を持ちながら発展してきました。明治時代に西洋の建築文化が移入されると、いつしか建築と庭の連続性は失われていきますが、近年、屋上緑化の普及や自然を生かした建築デザインなど、建築と自然の関係はふたたび緊密になってきています。

本セミナーでは、自然と建築、都市、人の関わり、その現状と未来について考えます。



ラコリーナ近江八幡 草屋根
藤森照信/設計 2015年(平成27)



会場(自由学園明日館講堂) 外観
写真提供:自由学園明日館

information

日時: 2018年(平成30)1月27日(土) 13:15~16:50
会場: 自由学園明日館 講堂(東京都豊島区西池袋2-31-3)
内容: 「都市と造園・園芸・雑草」 石川初(慶應義塾大学教授)
「格闘と共生—藤森式建築と自然」 藤森照信(当館館長)
ディスカッション「建築・都市・自然」
石川初・藤森照信・米山勇(当館研究員)

*お申込み方法・詳細は上記えどはくカルチャーホームページをご覧ください。

「す組」の纏、触る 模型も仲間入り

2002年(平成14)、町火消の歴史と文化を今に伝える江戸消防記念会のご協力により、いろは四十八組のうち「す組」の纏の体験模型を製作し、来館者からご好評をいただいております。同会に伝えられている纏の馬簾(細長い飾り)は、木綿を二重にして和紙を貼り付け、胡粉を塗ったものを48本つけますが、とても硬く、先端が目に入る危険性もあるため、体験用の模型では革製の馬簾をつけています。

今年度は第二弾として、実際使われているものと同じ材料で、触る模型を製作します。馬簾の硬い感触や、「カラカラ」という音、陀志とよばれる纏の標識部分の不思議な形が体感できます。こちらは、ワークショップなどで活用する予定です。



体験模型「す組」の纏

研究の 散歩道

「す組」の纏の変遷

学芸員

松井かおる・文

火 事が多い江戸の町では、大名火消、定火消に続いて、1718年(享保3)、町奉行大岡越前守忠相によつて町火消が創設された。1720年(享保5)、町火消は、いろは四十八組(へ、ひ、ら、ん組は百、千、万、本組に変更)に編成され、組の標識として幟を用いた。翌年、標識は幟から吹き流しとなったが、1730年(享保15)、

四十八組を一番組から十番組の大組に統括した時から、現在伝わる形の纏が使われるようになった。維新後の1872年(明治5)、江戸町火消いろは組は東京府のもとで、六大区三十九組の消防組に改編された。

纏持ちは火事場で屋根に上り、自分たちの組がここで消し止めるという意思表示をする。纏は仲間の士気を鼓舞する象徴としても用いられた。「す組」は、江戸時代には二番組に属し、南小田原町、船松町、本湊町、木挽町、南八丁堀周辺を担当した。明治時代の消防組では「第一大区六番組」となった。



図1 『纏便覧』(部分)
1878年(明治11) 三宅輝久氏蔵



図2 「火事図巻」(部分) 伝長谷川雪提画
1826年(文政9) 資料番号:89210003

現在の「第一大区六番組」の組頭、三宅輝久氏所蔵の『纏便覧』(図1)によれば、「す組」の纏の陀志(頭部)は当初縦長の籠形で、1838年(天保9)から現在の形(籠目駒形三方面)となった。

初期の纏は、当館所蔵の「火事図巻」にも見られる(図2)。「纏便覧」の後半には、1867年(慶応3)、築地居留地造成にともない、この地区の町地が取り払われたため、「す組」が廃止されたこと、1872年(明治5)の消防組編成時、「第一大区六番組」として復活したことが述べられている。現在の纏は中央区月島第二児童公園内の「勝どき・豊海歴史資料展示館」に大神輿とともに公開されている(図3)。



図3 勝どき・豊海歴史資料展示館に展示されている纏と大神輿(開館日時:毎月第2土・日曜日、10:00~16:00)

ミュージアム
グッズ

オリジナルミュージアムグッズの新商品
当館収蔵の「武蔵野図屏風」を
デザインしたスカーフが完成！

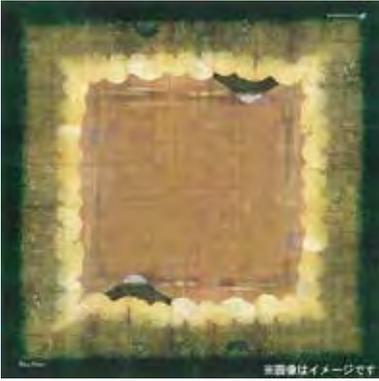


当館が収蔵する「武蔵野図屏風」をデザインした「風呂敷 de スカーフ」と「スカーフ」の2種類のオリジナルミュージアムグッズが完成しました。

「風呂敷 de スカーフ」は緑を基調に、中央に市松模様を配したデザインで、落ち着いた色合いです。風呂敷としても使うことができます。

「スカーフ」は、赤を背景に富士と金雲を大胆にデザインした、モダンな仕上がりになっています。

大きさはいずれも90cm×90cm。絹100パーセントです。



江戸博コレクション 武蔵野図屏風シリーズ
風呂敷 de スカーフ:9,800円(税込)



江戸博コレクション 武蔵野図屏風シリーズ
スカーフ:9,800円(税込)



武蔵野図屏風(左隻) 江戸時代 資料番号:87201313

秋草とススキが生い茂る大地から月が顔をのぞかせ、野辺の一面に広がる金雲の向こうには富士山も描かれています。万葉の時代から和歌に詠まれた武蔵野は、現在の東京の西郊にあたります。その原風景をとらえた屏風です。

休館中は、江戸東京たてももの園(東京都小金井市桜町3-7-1)、Crank Trunk(東京都庁第一本庁舎45階南展望室)、東京観光情報センター(東京都庁第一本庁舎1階)でお買い求めいただけます。ぜひお手にとってご覧ください!

クランク トランク

休館情報

当館は2017年(平成29)10月1日から2018年(平成30)3月31日(予定)まで、施設改修工事のため全館休館しています。各施設再オープンの詳細は下記のとおりです。

- 常設展示室・図書室:2018年(平成30)4月1日(予定)
- ミュージアムショップ・レストラン:2018年(平成30)4月1日(予定)
- 特別展示室:2019年(平成31)4月(予定)
- 貸出施設(ホール・楽屋・会議室・学習室):2019年(平成31)4月(予定)

2018年(平成30)度の団体来館予約・ボランティアガイドについて

団体(学校団体含む)来館予約は2018年1月10日(予定)から、ボランティアガイド予約は2018年3月9日(予定)から受付を開始いたします。詳細は当館ホームページをご確認ください。

休館中のお問い合わせはこちら

東京都江戸東京博物館 03-3626-9974(代表)
*平日9:00~17:00
2017年(平成29)12月29日~2018年(平成30)1月3日を除く

江戸東京博物館 NEWS 臨時号

お問い合わせ 03-3626-9974(代表)

ホームページ <http://www.edo-tokyo-museum.or.jp>

来館のご案内 JR総武線「両国駅」西口から徒歩3分
都営地下鉄大江戸線「両国駅(江戸東京博物館前)」A3・A4出口から徒歩1分
都バス錦27・両28・門33系統 墨田区内循環バス南部ルート「都営両国駅前(江戸東京博物館前)」下車、徒歩3分

発行日 2017年(平成29)12月8日(金)

編集・発行 公益財団法人東京都歴史文化財団 東京都江戸東京博物館
〒130-0015 東京都墨田区横綱1-4-1

制作・印刷 美術出版社 デザインセンター

次号は記念すべき100号!

江戸東京博物館NEWSは刊行以来、多くの方々に愛読いただいています。おかげさまで、次号は100号を迎えます。2018年(平成30)3月末頃発行予定です。100号では、江戸東京博物館NEWSの振り返りや今後の常設展示の掲載を予定しております。その他にも内容は盛りだくさん。どうぞお楽しみに!



江戸東京博物館NEWS1号と99号